

2024年度 事業報告書 (4/1~3/31)

法人の名称 特定非営利活動法人 木々の会

I. 事業の成果

年度当初に立てた基本方針【〈地活〉のいまを見つめ今後を皆で考える】および【「パートナー」の再発見から新たなビジョンを】に基づいて取組み、次に向けての一步を踏み出した。

- 地活・グループホーム運営検討会議において通年テーマとして〈地活〉の現状と課題を継続検討し、理事会に報告、さらに議論した。利用者の減少や高齢化の状況について、その要因や今後の対応を様々な角度から検討した結果、〈場〉の持つ魅力の再発見と積極的な発信が必要との共通認識をもった。既に手がけている関係機関等へのPR活動を更に推進するとともに、見学会の開催など新たなアイデアを具体化していきたい。
- 30周年イベントでは、準備の間も含めて、メンバーやパートナー、会員・関係者が一緒にこの問題を考える時間を持つことができた。特に、トーク・セッションはパートナーの声を直接届ける良い機会となった。今後も様々な立場の人が顔を合わせて話し合い、それぞれの意見やアイデアを交流する機会をつくっていきたい。

以下のことにも力を入れて取り組んだ（事業内容の各項に内容を記載）

- 新グループホームを軌道に乗せること ⇒「メゾンいさな」の項参照
- 組織・運営態勢を引き続き整備すること
初めて一年通して複数の職員で業務にあたったことにより、重要事務のダブルチェックの実施やネットバンキングや事務ツールの運用開始など改善に着手し、一定の効率化と安定化につながった。同時に検討課題が洗い出されてきた。なお、認定 NPO 法人としての認定有効期間更新を完了した（有効期間：2024年11月～2029年11月）
- 「木々の会 30周年」行事を楽しく有意義に行なうこと ⇒詳細は「30周年記念行事」の項参照
メンバー、パートナー、職員および会員が力を合わせて幾つもの企画を実行し、当日は200人を超える方々に来場いただき、共に祝い、旧交を温めつつ、一人ひとりと木々の会の〈いま〉を感じ・考えるひと時を持つことができた。

II. 事業内容

1. 障害福祉サービスに関する事業

【事業全体の総括】

- 地域活動支援センター・グループホーム共に職員の入退職や勤務形態の変更があり職員体制が変わった。
- 地域活動支援センターやグループホームの職員が、日常的に情報共有、連携を取りながら業務を行った。
- 合同でのスタッフミーティングを定期的に開催し、課題の共有や意見交換を行い、連携力の強化を図った。
- 自主研修では外部の方を招いて話を聞き、見聞を広めた。
- 初任者研修や新任職員を対象にしたオリエンテーションを法人内で実施した。また、旭区の自立支援協議会や横浜市精神障害者地域生活支援連合会など、様々な外部機関の会議に参加し情報共有をした。
- 木々の会人権擁護・虐待防止委員会を開催。各事業所の情報共有と虐待防止に向けた今後の方針等を話しあった。
- 徐々に新型コロナウイルス前の日常に戻りつつあるが、感染症対策に努めた。

(1) 地域活動支援センターの運営

【総括】

- 福祉サービスが多様化する中、メンバーのニーズと合わせて、地域活動支援センターの役割や課題について検討を行った。引き続き話し合いを続けていく。

- 両地活ともに、年齢を重ね身体的な変化にともない通所日数の減少や通所者数が安定しない日々が続いている。しかし、見学や体験利用を経て新たに繋がるメンバーもいた。
- 両地活とも新しい職員体制となり、日々の情報共有を大切に行い、連携の強化を図った。30周年記念イベントを協力して開催することが出来た。
- 自然災害 BCP（事業継続計画）及び感染症 BCP の作成をしたが、運用に向けて課題も残った。両地活間で情報共有も図りながら、見直しをしていきたい。

（1-1）地域活動支援センター「木楽舎」の運営

【内容】

◎ 一年のまとめ

○ 新しいメンバーの台頭

いつもと同じメンバーが作業に入る一方で、新しいメンバーの参加が見られる場面も多くなってきた。木楽舎の場所に慣れてきたことで活動日数を増やし、各々の持ち味を発揮している。作業時間以外にもお互いの話や交流する場面も幾度となく見られるようになった。新しいメンバー達が定着してきたのは、今までのメンバー達が場を守ってくれているおかげである。疲れが見える時にもそれぞれの関わり方で木楽舎を支えてくれている。そうした支えがある事で、新しいメンバーが安心して馴染むまでの経験を積むことができている。多世代のメンバーがいる事で、時には先輩達が、時には新しいメンバー達が一緒になって木楽舎という場を作っている。また、木楽舎の場以外でも自主的に声を掛け合い、交流の機会をもつ場面も見られた。大型連休中は居場所を求めるメンバーの為に木楽舎の場を活用していたが、木楽舎での交流を元に新たな交流を持つメンバーも多く見られるようになってきた。

○ 通所者数の減少

一方で、年間を通して通所者数の減少を感じる1年でもあった。特に下半期にかけては大きく通所者数を減らし、プログラムの運営にも苦慮する場面が多く見られた。通所者数の確保は大きな課題となってきている。体調をくずした事で入院し、今までと同じペースでの通所が困難になる等、例年よりも通所日を減らすメンバーが少なくなかった。他のメンバーへの声掛けや新規メンバーの受入等も行っているが、通所者数の減少に追いつけていない実情がある。メンバーからも人数が減ったことで場を維持していけるのか不安視する声が聞こえており、安定した場を運営するために通所者数の確保が求められている。

○ 年齢に伴う体の変化

年齢を重ねた事で心の病以外の治療を必要とするメンバーも多くなっている。身体の機能が変化することで新たな治療が必要になるのは仕方のない事ではあるが、治療を意識する事で精神的な負荷がかかり、精神的に体調をくずすメンバーもいる。昨今の急激な気候変化で体調をくずすメンバーもおり、職員が対応に追われる場面も多く見られた。

○ 新型コロナウイルス

新型コロナウイルスが5類になった事で徐々に外に出る活動が再開されているが、一方で制限がかからなくなった事で現場としての対応が難しくなっている。感染が流行した際にどのような基準で対応すればよいのか。現場で苦慮する場面も多く見られた。

令和7年度、木楽舎が30周年を迎える。今までの歴史をベースにしながら、これからのことをメンバーやスタッフ、パートナー等地域の中で一緒に考えていきたい。入所者1名。

◎ 安心できる場作り

「働く」

- 喫茶・「ゆいまーる」水、木、金曜に営業・貸切営業 鶴ヶ峰ケアプラザ 2回
 - ・クリスマスフェア店当番
 - ・出張喫茶<老人施設> コロナ感染症拡大防止の為中止。
 - ・社会資源を知るツアー
 - ・鶴ヶ峰ケアプラザふれあいまつり
 - ・むくどりまつり
- 毎日の昼食作り
- 防災・避難訓練(地震・火災)・鶴ヶ峰地区防災訓練への参加

「楽しむ」

- 全体レク：箱根バスハイク・クリスマスランチ・お寿司の会・花見・ハンバーガーランチ
クレープの会・そうめんランチ・持ち寄り夕食会・お好み焼きランチ・おまつりランチ
- 有志レク：タカノフルーツパーラー・名探偵コナン&あぶない刑事・カラオケレク
「会活動との連携」
工賃、展示、みんなの会各チーム、木々の会便り編集委員会、木々の会 30 周年実行委員会
みんなの会 事務局会 クリスマスフェア 木々の会研修 SNS

◎ 区内の活動を担い、交流する

- ・ふれあいスポーツ大会 ・第 26 回旭区精神保健福祉セミナー ・あっぱれフェスタ
- ・旭区精神連絡会 ・旭区喫茶、製菓グループ ・鶴ヶ峰地区ささえあい連絡会

◎ 啓発活動 メンバーとスタッフで精神障害、病気、木楽舎の活動について説明する

- ・職員新規採用希望者 ・市大病院看護師 ・新規体験通所希望者対応 ・見学 9 組 17 名

◎ 個々のニーズに応じて

- 木楽舎内の相談援助 面談、電話相談等：随時 金銭(家計簿含む)1 名 生活ノート 1 名
- 同行による支援 通院 成年後見制度説明 職安等
- 他 ・ケア会議 5 回 計画相談会議 14 回

◎ 運営連絡会開催状況

- ① 6 月 10 日(月)②10 月 21 日(月)③3 月 17 日(月)

【日時】	通年(開所日数 238 日)
【場所】	横浜市旭区鶴ヶ峰
【従事者人員】	常勤 2 人、非常勤 3 人
【受益対象者】	利用登録者 30 人(2024 年 4 月)⇒31 人(2025 年 3 月) 精神障害者 パートナー登録者を含む地域住民多数が参画
【支出額】	25,026,290 円

(1-2) 地域活動支援センター「むくどりの家」の運営

【内容】

① 一年のまとめ

- ご本人の体調不良(精神的・身体的)を理由にお休みされたり、今年度は精神科や他科に入退院をされる方も多く、通所するメンバーが減少した。又、メンバーのご家族のご逝去も続いた。受診や他機関等への同行、電話相談も多いが、関係機関と連携して支援できる体制は有難かった。
- 利用者数が減少する中でも、11 月から 3 月まで様々なイベントが毎月続いた。その為、準備に追われた。恒例の行事も年々開催(参加)する厳しさを感じている。今年度は特に、法人の『30 周年記念イベント』があり、開催に向けて力を注いだ。
- 2 月のイベントにて、飯塚聡監督によるドキュメンタリー映画特別試写会『むくどりの家は、ココにある』を上映。映像を通して、自分達の活動を改めて振り返る機会を頂けたことはとても良かった。
- 手織や文具づくり(絵を描くこと)、演劇ワークショップ等のプログラムを通じて『自己表現』をする機会がたくさんある。言葉だけではないそれぞれの表現の仕方を今後も大事にしていきたい。
- 新規利用者の募集を行い、出向いたり、関係機関にお声かけをしたが利用に繋がらなかった。今後も周知の仕方を工夫し PR していきたい。
- 今年度も職員の退職に伴い、職員体制が変わった。法人内の職員とも協力・連携しながら支援を行った。

② 作業及び活動プログラム

- 手織/織りで自己表現する。織り手が減少しているが、新たに興味を持つ人もいるので、織りの楽しさを継承していきたい。
- 文具/メンバーが描いた絵をしおりやハガキに製品化した。新たにポチ袋を考案し好評であった。

文具ミーティングは適宜開催。

- ランチづくり/買い物や調理は協力しながら取り組んだ。物価高騰に伴い、話し合いを重ね11月からランチ代を50円値上げした。
- 菜園/今年の夏は暑すぎてトマトが不作。小さな菜園だが、カボチャ、小松菜、春菊等を収穫し、ランチで食したり販売した。
- 季節の食品づくり/年々作るのが大変になって来ているが、ランチで食す味噌を協力しあい15kg分を仕込んだ。
- 印刷/関係機関や法人内等の印刷・製本の受注を受けた。
- メンバーミーティング(1日ミーティング含む)/計26回、各活動ミーティング(随時)。
- スポーツ/旭区ふれあいスポーツ協議会主催のポッチャ大会(6月)、卓球大会(3月)に参加。他事業所との交流を楽しんだ。
- 場を支える活動/会計(工賃計算、ランチ会計)、清掃、整理等。
- 生活支援/訪問、面会、通院同行、生活相談(電話を含む)。
- その他/竹細工、演劇ワークショップ、ボディワーク、SBT(生体バランスセラピー)、ヨガ、福寿荘カフェボランティア、DVD鑑賞、もぎり絵ワークショップ、墨遊び等。

③ 行事

- むくどりまつり：11月21日
- 研修『虐待防止研修』、『職員自主研修』、『防火・防災管理新規講習』
- 見学/『トゥルシー畑の見学/「トゥルシーのお茶パック」と「むくどりイラスト」コラボ製品打ち合わせ』
- レク(有志)/映画鑑賞『陰陽師0』、福祉事業所カフェ『Far niente』&ゆめが丘『ソラトス』
- 地域交流行事/クリスマスフェア(ゆいま〜る)、あっぱれフェスタ(旭公会堂)、旭区精神保健福祉セミナー(旭公会堂)、木々の会30周年記念イベント(サンハート)、白根音楽サロン(演奏&販売/白根地域ケアプラザ)、中学生職業体験でポッチャ交流(白根地域ケアプラザ)
- その他/避難訓練・防災ミーティング：5月31日、11月26日

④ 研修・見学受け入れ

当事者、家族、パートナー(ボランティア)、地域住民、関係機関職員等 計10回 28名

⑤ 運営連絡会開催状況

- * 6月28日(金) 令和5年度事業/決算報告、上半期計画 (15名)
- * 10月18日(金) 上半期報告、下半期計画、むくどりまつり等イベントについて (17名)
- * 3月21日(金) 下半期報告、イベント報告、令和7年度事業計画/予算について (13名)

【日時】	通年(開所日数235日)
【場所】	横浜市旭区白根
【従事者人員】	常勤3人、非常勤1人
【受益対象者】	利用登録者25人 精神障害者 パートナー登録者を含む地域住民多数が参画
【支出額】	22,254,716円

(2) 共同生活援助(グループホーム)「メゾンあかしゅ」

【総括】

① 一年のまとめ

- 昨年度末からの職員の入退職に加え、管理者の変更、9月末にもサービス管理責任者の退職、3月末で非正規1名の退職があった。その度、非正規職員の採用活動を行ったが、思うように応募がこない状況に苦戦した。関係者のつてをたどり2名の採用と、タウンニュースへの掲載で1名を採用する事ができた。
- 10月からサービス管理責任者不在の運営となり、届出をめぐっては横浜市から指摘を受け12月は報酬の30%減算となった。

○ BCP（災害・感染症）に基づく研修や訓練を行った。

② 生活支援

- 入居者の支援については、障害分野だけでなく必要に応じて介護保険サービスやそれ以外の分野も視野に入れ、それぞれが希望する暮らし方や生活の課題に対応できるよう支援している。
- 希望者には、宅配弁当手配や食事会提供などの食の支援をすることで、家事の負担の軽減をおこなっている。平日には週2、3回配食サービスの利用、祝日や長期休暇を中心にランチの食事会を開催している。
- 2024年度の開催 メゾンあかしゅ 22回 メゾンいさな 23回

③ 地域交流

- * 川井夏祭り 8/14 * 川井宿町防災避難訓練 5/19 * 今宿連合防災避難訓練 6/15
- * ゆいまーるクリスマスセール参加 12/11 * ゆいまーるクリスマスコンサート参加 12/17
- * 木々の会30周年イベント参加 2/22

④ 委員会・会議

- * メゾンあかしゅ運営連絡会開催 6/25、10/23 * メゾンいさな運営連絡会開催 7/18、10/17
- * メゾンあかしゅ・いさな合同運営連絡会開催 2/20

○ 職員会議

- 全スタッフミーティング 5/15、10/16
- 正規職員ミーティング 4/8、4/16、4/22、4/24、5/23、5/31、7/9、8/2、8/23、10/10、10/16、11/20、11/28、12/10、1/20

○ 外部会議 OL：オンライン参加

- * 旭区自立支援協議会実務者定例会 6/18 * 旭区自立支援協議会精神連絡会 6/25、8/27
- * 旭区自立支援協議会 暮らしの連絡会 7/30、2/12
- * 旭区精神GHミーティング 5/28、8/6、11/19 * ハイツ川井を見守る会 5/29、9/18、2/19

⑤ 職員体制

- 両方のグループホームで正規が3名、非正規が5名の職員体制になった。入居者の状況に応じた臨機応変に職員の勤務が行った。

⑥ 研修

OL：オンライン研修

- * 法人内研修 11/25 初任者研修・11/28 職員オリエンテーション
- * 市精連 報酬改定セミナー 4/3 * 内閣府 障害者差別解消法に掛かる説明会 6/5
- * ウィリング横浜 新任管理者のための運営基礎 6/12 * パーソナリティ障がい講演会 7/9
- * 旭区地域自立支援協議会「あさひ又村塾」6/26
- * 精神保健福祉基礎研修～基礎医学編 6/28
- * かながわ障がいケアマネジメントサービス管理責任者補足研修 7/16～30
- * かながわ福祉サービス振興会サービス管理責任者基礎研修 7/26～8/27 研修8/28
- * かながわ福祉サービス振興会サービス管理責任者実践研修 10/9～10/20 研修10/24、25
- * 旭区基幹虐待防止研修 10/16 * 旭区自殺対策研修会 10/29
- * あさひ障害福祉公開講座「BCP研修」12/5
- * あさひ障害福祉公開講座「障害がある人の成年後見制度について」1/27

⑦ 防災訓練・研修

- * BCP研修及び訓練(災害・感染症) 5/15、5/19、10/16、11/18、11/27、3/26
- * 避難訓練 あかしゅ 5/19、11/16 いさな 6/15、11/2

(2-1) メゾンあかしゅ

グループホームでの生活が5年目を迎えたあかしゅは、入居者が個々の生活に取り組む様子に年月を積んだ落ち着きと、経験がついてきた。自分自身で試行錯誤してみたり、他入居者に相談をしてみたり、職員と一緒にチャレンジをしてみたりと、入居者同士や職員との動きに様々な様子があらわれた。今後も入居者同士や

職員との関係づくりに配慮し、入居者自身がよりよい生活に向かえるよう支援する。また経年に伴い、設備面の修繕（乾燥機のドア交換、共用風呂の換気システムの修理）や居室内のトイレ補修などがみられた。

【日時】	通年
【場所】	横浜市旭区川井宿
【従事者人員】	（グループホーム共通）常勤3人、非常勤10人
【受益対象者】	入居者6人 精神障害者
【支出額】	19,970,479円

（2-2）メゾンいさな

開設時から満室の7名入居で生活が始まったが、骨折による自宅療養後から生活が始まる入居者もいた。入居して半年くらいまでは、いさなでの生活へ慣れようとする意欲と実際の生活での困りごとにとまどいながらも職員と一緒に対応していく姿勢がとても目立っていた。そこから猛暑の時期には体調不良に悩まされることもあったが、その中でもランチ会や懇親会等の行事を楽しみに企画し行う事ができた。9月には、入居者1名がリビングで転倒し、骨折のため4か月程の長期入院となった。続けて11月に2名、12月、1月にも1名ずつが入院する事態となり、下半期は入院者の対応に追われた。また、かねてより一人暮らしを希望していた1名は、関係機関担当者の度重なる変更で事態に影響を受けながらも粘り強く1人暮らしにむけて動き始め、3月内に退去した。

【日時】	通年
【場所】	横浜市旭区今宿西町
【従事者人員】	（グループホーム共通）常勤3人、非常勤10人
【受益対象者】	入居者7人 精神障害者
【支出額】	19,903,994円

2. 社会参加と地域交流に関する事業

（1） リサイクル活動

【内容・日時】

リサイクルセールを秋に1回のみ実施した。10/24 売上¥40,451

クリスマスフェアへの参加及び店番のシフトに協力した。12/4~6、12/11~13 売上¥28,276

リサイクルチームのパートナーが少なくなり支え手が足りない現状だが、あけぼの会(家族会)の方が、お一人助っ人に入って下さっている。

【場所】	横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目ほか
【従事者人員】	5人
【受益対象者】	地域の市民
【支出額】	36,000円

（2） 文化活動

【内容・日時】

○ 絵手紙 月1回10回開催

30年を越える活動で、少人数ではあるが来てくださる方々の熱心さに続けています。
平均6~7名の参加。

○ 展示

*7月にもぎり絵のワークショップを開催。参加者22名。作品をゆいまーるに展示した。

木楽舎・むくどりの家・メゾンあかしゅ・メゾンいさな 4事業所合同作品も作成。

ゆいまーる店内や、30周年イベントで展示した。

*30周年イベントにて作品の展示を担った。

- 「墨あそび」 1月7日に実施。参加者21名。作品をゆいまーる店内や30周年イベントで展示した。
- 手作りの会
昨年度（2023年度）をもって活動を終了とした。有志による「干支（えと）づくり」は、クリスマスフェア販売にあわせてゆいまーるで活動した。

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目ほか
 【従事者人員】 5人
 【受益対象者】 地域の市民 精神障害者
 【支出額】 56,000円

(3) 地域交流イベント

【内容】

- コンサート

コーヒー・ケーキ付のゆいまーる「クリスマスコンサート」は2019年が最後となっていた。コロナ禍を経て、5年ぶりに計画通りに実施することができた。久しぶりの開催であったので、気分を盛り上げるため、夏に各事業所でリクエスト曲を募ったりした。当日、参加者の顔ぶれに変化はあったが、新たな参加者も見られ、男性4人組のサクソフォンの音色とトークで楽しい時間を過ごした。小学生の飛び入りもあり、地域とのふれあいを感じる一幕もあった。

*ゆいまーる「クリスマスコンサート」(2010～)～モデトロ・サクソフォン・アンサンブル～

12月17日(火) ①11:00～12:00 参加者23名

②14:00～15:00 参加者24名

- クリスマスフェア

開催期間：12/4(水)～6(金)、12/11(水)～13(金)

木楽舎、むくどりの家、木々の会に加えメゾンあかしゅの入居者が店当番に参加した。自主製品、リサイクル品の他、干支の会が作成した蛇も販売された。開催を楽しみにする来客者がいる一方、売上は昨年度より減少した。店当番の担い手不足、開催に向けたチラシの配布や役割分担等が次年度以降の課題である。

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目ほか
 【従事者人員】 5人
 【受益対象者】 地域の市民 精神障害者
 【支出額】 88,100円

3. 生活支援に関する事業

(1) 「食」から暮らしを考えるチーム

【内容・日時】

- 見学・研修 できなかった。
- 食事会 各事業所での開催を計画したが、メゾンあかしゅでの開催は台風のためできず。むくどりの家は自主企画に便乗する形をとり、木楽舎とメゾンいさなでの実施となった。食事会参加は「楽しそうだから」が多く、気のおけない仲間との触れ合いを求めているようである。また、参加メンバーに「暮らし」のこのことの聞取りも行った。下記参照。

*7/12(金) むくどりの家「女性だけのお泊り会」の「持ちより夕食会」参加

参加者10名(メンバー5名、職員2名、パートナー2名)

*9/27(金) 木楽舎で夕食会「鮭のちらし寿司ほか」

参加者12名(メンバー8名、職員2名、パートナー2名)

*12/27(金) メゾンいさなでランチ会「おでん」 参加者 18 人(メンバー12 人、職員 2 人、パートナー3 人)

○ 石渡探偵団レポート作成 石渡団長を中心に、上記食事会の際に聞き取り調査を実施。

聞き取り項目は、「自宅での食事、自由時間の過ごし方、困りごと、やっみたいこと、楽しかったこと」などであった。2025 年度のみんなの会で報告する予定である。

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰 2 丁目ほか
【従事者人員】 4 人
【参加者】 精神障害者、地域の市民、職員
【支出額】 11,341 円

4. 研修・啓発・広報に関する事業

(1) 研修会

【内容・日時・場所・参加者】

前年からスタートした法人としての職員研修実施に重点を置いた。日々の業務を担い、「これから」を共に考えていくベースとなる事の共有を主眼とした。「パートナー」「地活」を共に考える研修会は実施に至らなかったが、30 周年イベント・トークセッションのかたちで頭出しした。

① 初任者研修

*11/25(月) 初任者研修(第1回)

「横浜市の福祉制度・旭区の社会資源 ~明日から使える調べ方~」 講師：吉山舞(理事)
情報の調べ方が分かるようになることをねらいとした実践的な内容。「フランクな雰囲気で聞きたいことが聞けた」との感想が聞かれた。職員自主研修と連係して開催。

参加者：職員 7 人、理事等 3 人

*11/28(木)「木々の会へようこそ」職員オリエンテーション(スペシャル版)

入職時に新人研修を実施できなかった職員向けのフォローアップ研修。各々の初心をリマインドしつつ、木々の会の来歴と活動・組織、支援の基本的なことについて改めて伝え、話し合った。「関わってきた人の思いが聞けた」等の感想あり。参加者：職員 4 人、理事 2 人

② 外部研修への参加

事業所単位での参加はあったが、会としては実施しなかった。

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰 2 丁目ほか
【従事者人員】 4 人
【受益対象者】 会員、地域の精神障害者・関係者 多数
【支出額】 0 円

(2) 会報、活動広報誌の発行

【内容・日時】

① 『木々の会便り』

計画通りに年 3 回発行した。発行(印刷)部数は会員数を基本とし、必要に応じて増刷することとした。30 周年の時にバックナンバーを並べた。

- 78 号(8/23) 150 部 定期総会報告、新旧職員挨拶、メゾンいさな報告 など
- 79 号(10/31) 140 部 各事業所のあれこれ、30 周年告知
- 80 号(1/6) 180 部 新年のご挨拶、「Kカフェ」調査書など

〈共通内容：巻頭言、インフォメーション〉

② ホームページ

各事業担当者によるニュースの更新や状況の変化の反映はされたが、新たな活用への工夫はできず、次年度の課

題としたい。

③ リーフレット 微調整ではあるが、修正し、活用した。今後は、改訂作業が必要になる。

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目 ほか
【従事者人員】 木々の会便り9人、ホームページ3人
【受益対象者】 会員、地域の精神障害者・関係者 多数
【支出額】 73,486円

(3) 研究及び出版

【内容・日時・場所】

『Kかふえ』 3回開催

日時:	* 7月20日(土) 10:30	木楽舎・ゆいまーる	出席7名
	* 9月25日(水) 16:00	白根福音教会	出席7名
	* 12月13日(金) 13:30	むくどり FHS	出席7名

内容：フリートークを前提に、心に残る本をテーマにした「本を読まない読書会」コーナーも。

ある参加者からは「話しの中で、生育環境が違っても、兄弟姉妹の順番による共通の特徴があることが不思議で面白かった」との感想が聞かれた。

【従事者人員】 2人
【参加者】 地域の市民、精神障害者
【支出額】 20,840円

(4) 木々の会30周年記念行事

【内容・日時・場所】

*日時 2025年2月22日(土) 13:00~16:30

*場所 横浜市旭区民センターサンハート *来場者数 216名

*キャッチコピー ひとり一人のワインディングロード~変わる事、変わらない事、次の一歩~

*目的と呼応プログラム

木々の会のこと、精神科に通院している人のありのままの暮らしを伝える

ドキュメンタリー映画特別試写会「むくどりの家は、ココにある」、監督トーク

共にやってきたこと、パートナーさんの思いを知る：「トーク・セッション 地域で共に」

あゆみ、変化したこと・今・未来を伝える：30周年スライドショー、木々の会のあゆみ、

「30周年記念・ちいさな文集」(30人が文章・イラストを寄稿、40頁・300部発行)の配布

感謝、30年続いたことのお祝い：ライブパフォーマンス(○×△□の歌、チカチカひかる)、

共同制作した手織り布の展示、交流会、紅白饅頭の配布

*まとめ

イベント開催にあたり、7月より準備を始め、当日までに7回の実行委員会を経て、当日は全職員、メンバー、パートナーが力を合わせて、多彩なプログラムを実現することができた。当日集まったメッセージカードで桜の木を作成し、後日ゆいまーるに展示した。

カードやアンケートに寄せられた来場者の言葉は「暖かい会だった」「一人ひとりの力が合わさって素敵」「昔の知り合いです」等、心あたたまるものが多かった。

実行委員や職員からは、大きな行事だから準備からもう少し関わればよかったという意見もあった。多忙な日常業務との兼ね合いとなるので現実的には簡単な事ではないが、30周年という大きな節目の時に、会の行事に皆で取り組みたいという言葉が聞かれたのは頼もしく、明るい未来を感じさせてくれた。

【従事者人員】 20人

【参加者】 地域の市民、精神障害者、福祉・医療関係者
 【支出額】 346,984円

5. その他、この法人の目的を達成するのに必要な事業

(1) パートナー活動

【内容】

① 『活動のお知らせ』

102号(4/26) 100部 103号(6/26) 100部 104号(8/23) 100部
 105号(10/31) 100部 106号(12/23) 100部 107号(2/25) 100部

② 「パートナーの手引き」の作成

余力がなく、作成できなかった。パートナー（協同）のしくみ、ルールなど基本的な確認は随時必要なので引き続き検討したい。

③ 研修活動との連携

研修ではなかったが、30周年行事のトーク・セッション準備の中でランチに関わっているパートナーさんたちと話し合う機会を持つことができ、行事の場で短時間ではあったが多くの方にパートナーの声を直接届けることができた。

【日時】 通年
 【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目 ほか
 【従事者人員】 パートナー23人、担当者4人
 【受益対象者】 地域の市民、精神障害者
 【支出額】 パートナー工賃及び関連費 285,660円

(2) みんなの会

【内容・日時・場所】

対面で3回開催。1月は交流会を予定していたが、感染症が流行し中止となった。10月には、以前より課題となっていた「ランチ代」について話し合い、物価高騰や利用者減の影響もあり、11月からの値上げが決まった。3月には、30周年文集の受賞者発表が行われ、表彰は総会の日に行われることになった。

日時	場所	人数	内容
6月18日(火)	白根地区センター	24名	①工賃チームより ▶2023年度作業会計決算報告 ②みんなの会でやりたいこと
10月22日(火)	白根地区センター	30名	①工賃チームより ▶2024年度作業会計上半期報告 ②新職員紹介 ③ランチ代の値上げについて
3月18日(火)	白根地区センター	25名	①工賃チームより ▶2024年度決算見込み、年度末還元金について ②ランチ統計 ③30周年文集受賞者発表

【従事者人員】 6人
 【参加者】 活動に関わる精神障害者・パートナー・職員等 延べ79人
 【支出額】 12,856円

以上